**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第１９回　（２０１５年７月７日）**

**・前回の復習☞　(11)頁　シュリー・ラーマクリシュナの主な教え**

参加者：

前回は、タクール（シュリー・ラーマクリシュナ）の主な教えについての話でした。

・人生の目的は悟り

・それ以外に至福はない

・神への愛と世俗への無執着が必要

・自分の努力と神様の恩寵

・家住者は、聖なる交わり、祈り、精神的放棄をおこなう

・無執着のためには何が一時的であるかを識別すること

・神様についての本を読んだり、聞いたりするだけでは十分ではなく、集中して考える、祈る、憧れが必要

マハーラージ：それで、最後は？

参加者：神に制限はない。限界をもうけてはならない。

マハラージ：それから？

参加者：信仰の数だけ道がある。

マハラージ：それで終わり？　最後は？

参加者：人の宗教を批判しない。

マハラージ：それで？　一番最後のポイントは？

参加者：自分たちの宗教だけが正しいと思わない。

マハラージ：それから？

参加者：自分の誤りを直さず、人の誤りを批判するのは良くない。

マハラージ：ＯＫ

**・第１９回の勉強：『福音』勉強の前に唱えるマントラ**

『ラーマクリシュナの福音』（本文）の勉強がいよいよ始まります。

今回はマントラの紹介です。インドで、信者たち、お坊さんたちはいつも『福音』の勉強の前にこのマントラを唱えています。



　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（マハラージの手書き サンスクリット語）

タヴァカタームリタム　タプタジーヴァナム

コヴィビィリーディタム　カルマシャーパハム

シュラヴァナマンガラム　シュリーマダータタム

ブヴィグルナートゥイエ　ブーリダージャナーハ

単語に分けると、

タヴァ　カタ　アムリタム

タプタ ジーヴァナム

コヴィ　ビ　イーディタム

カルマシャ　アパハム

シュラヴァナ　マンガラム

シュリー　マット　アータタム

ブヴィ グルナトゥイ　ブリター　ジャナーハ

（ＣＤを聴き）このような美しいメロディーに合わせて唱えることもできます。

**（１）マントラについて**

**①マントラの**

ヴェーダもウパニシャッドも有名ですが、世界的にもっとも有名な聖典は、千もの言語に翻訳されている『バガヴァッド・ギーター』です。それに並んでインドでもうひとつ有名なのが、『シュリーマッド・バーガヴァタム』。Ｍさんは、『シュリーマッド・バーガヴァタム』からこのマントラを引用しました。

**②聖典のタイトル**

「シュリー」は尊敬を表す言葉で『ギーター』にも『バーガヴァタム』にも「シュリーマッド」という言葉が付いています。

「シュリー」の意味は「とても偉大」「高い」「神聖」「美しい」。「マッド」の意味は「ある」。ですから「シュリーマッド」は「シュリー」が「ある」という意味になります。（＊「シュリーマッド・○○さん」（男性の場合）、「シュリーモッティ・○○さん」（既婚女性の場合。未婚の女性には「クマリ」を使う）という名前は、ちなみにインドの伝統的名前ですとのこと）

「バガヴァッド」の意味はなに？　「バガヴァーン」は「偉大な存在」。偉大な存在には、「一番美しい」「一番知識がある」「一番富を持っている」などの６つの印があり、その６つのすべてを持つ存在が「バガヴァーン」です。普通の人はバガヴァーンではない。

**③『シュリーマッド・バガヴァッドギーター』と『シュリーマッド・バーガヴァタム』の相違**

『バガヴァッド・ギーター』には神様バガヴァーンの“**教え**”が入っています。

また、『ギーター』は歌えます、唱えます、その意味で「ギーター」。それはソンギート、ギート（サンスクリット語で歌の意）、つまり「歌」という言葉から来ています。「教え」は、（ギートから）「ギーター」に変化します。

『バーガヴァタム』には神様の“**物語**”“**遊び**”“**生涯**”が入っています。それだけではなく、神様の“**教え**”も入っています。

『ギーター』には物語はない。哲学、教えだけがあり、『バーガヴァタム』にはたくさんの物語があります。皆さん、協会の『シュリーマッド・バーガヴァタム』を読んだことがありますか？　クリシュナの物語、それが『バーガヴァタム』。

**④著者（Writer）**

『ギーター』は『マハーバーラタ叙事詩』の一部分で、その中の、戦場でのシュリー・クリシュナとアルジュナの会話の部分が『ギーター』です。その叙事詩はどなたが書きました？　とても偉大な聖者**ヴェーダ・ヴィヤーサ（Veda Vyāsa）**。

そのヴェーダ・ヴィヤーサはいろいろなものを著しました。

インドでは**六つの哲学（六派哲学　the six darshanas）**がありますね。

（パタンジャリの）ヨーガ、（カピラが創始した）サーンキヤ、（ゴータマの）ニャーヤ、（カナーダの）ヴァイシェシカ、（ジャイミニの）プールヴァ・ミーマンサ、そしてもうひとつが**ウッタル・ミーマンサ、それをヴェーダーンタ哲学と言っています。ウッタル・ミーマンサの哲学者はどなた？　ヴェーダ・ヴィヤーサです。ヴェーダ・ヴィヤーサは、ヴェーダ、ウパニシャッド、ダルシャナ（哲学）、プゥラーナ（物語形式の聖典）の作者でもある**とされています。

もちろんこれには意見もあります。同じ名前の別の聖者ではないか？など。

いづれにしても、ヴェーダ・ヴィヤーサは哲学をいろいろ著したあと、心が少しドライになりました。ヴェーダ・ヴィヤーサは、そんなに偉大な本を作ったのに、あまり心が喜んでいない、そんな気持ちになりました。

そのとき、ある助言が出ました。「ＯＫ、今あなたは、シュリー・クリシュナの遊びのことを書いてください。シュリー・クリシュナの遊び、神様の遊びは、とても素晴らしい、とても面白い。あなたは今、それを書けば、心はドライではなくなります。気持ち良くなります。心に喜びがあらわれます」。その助言を聞いて、ヴィヤーサは『バーガヴァタム』と『プゥラーナ』を著しました。

**⑤『バーガヴァタム』の物語の内容**

『シュリーマッド・バーガヴァタム』はクリシュナの生涯のとても面白い物語です。

クリシュナは生まれたあとよそに移って別のお母さんとお父さんに育てられました。その時のヴリンダーヴァンでのおもしろい話はたくさんあります。クリシュナは一見ふつうの赤ちゃん、ふつうの子供に見えましたが、とっても特別でした。そこでさまざまな遊びをしました。残酷なカンサ王はクリシュナを殺したかったが、どうしても殺すことができなかった。クリシュナの遊びの場所ヴリンダーヴァンには（女性、男性ともに）たくさんの友達がいましたが、クリシュナはある日ヴリンダーヴァンから離れて別の場所に行かなければならなくなった。友達はみな泣いて、クリシュナもとても彼らを愛していましたが、無執着で、必要ならばすぐ離れて、別の仕事をしに別の場所に行きました。そのあと、ユディシュテイラと友達になって、また新たな物語が始まって、クルクシェートラの戦いでアルジュナに教えを授けました。

『バーガヴァタム』の中には他の物語も入っています。メインはシュリー・クリシュナですが、小さいがとても素晴らしい物語が『バーガヴァタム』の中にたくさん入っています。もちろんテーマは霊的、スピリチュアリティ、それです。

**⑥なぜＭさんは『バーガヴァタム』のマントラを引用したのか**

「タヴァ　カタームリタム　タプタジーヴァナム」のマントラは、シュリー・クリシュナの性質がもっともよく表れている、『バーガヴァタム』の中にあります。

なぜ、Ｍさんはそのマントラを引用したのでしょうか？

なぜなら、シュリー・ラーマクリシュナについても、シュリー・クリシュナと同じアイデア、同じ話ができるからです。だから同じマントラを使うことができると思いました。

私たちは今までシュリー・ラーマクリシュナの特徴について勉強してきましたね。どうぞ皆さんそれを覚えておいてください。すると、なぜＭさんがこのマントラを使いたかったかがわかります。引用した意味と目的がわかる。つまり、「シュリー・クリシュナの生涯とシュリー・ラーマクリシュナの生涯と特徴は一緒」、それを理解できます。

**（２）マントラの言葉の意味**

**タヴァ「あなたの」**

＊あなたとはどなた？　神様。

**カター「教え、話、会話」**

**アームリタム「甘露」**

＊Ｍさんは本の名前を「シュリー・シュリー・ラーマクリシュナ・カタームリタム」と決めました。「あなたの話、あなたの教え、あなたの会話はとてもとてもすばらしい甘露です」という意味で。

＊それでは誰のための「甘露」でしょうか？　我々人間のためです。「タプタジーヴァナム」は、我々人間の、苦しみ悲しみの状況をあらわしています。

**タプタ「とても熱があつい。高熱で焼かれるような」**

＊これはふつうの人の人生を表現した言葉です。焼かれるような高熱を、人生の苦しみ、悲しみにたとえているのです。高熱は病気の兆候ではないですか？　本当に幸せだったら、体も心も涼しいです。

**コヴィ「賢い人」**（別の意味で「詩　poet」もあり）

**イーディタム「ほめる」**

**カルマシャ「罪」**

**アパハム　「取り除く」**

**シュラヴァナ「聞く」**

**マンガラム「善、良い、幸福（welfare）」**

＊「シュラヴァナマンガラム」は「聞くと善が出ます」。

**シュリー「美しいもの」**

**アータタン「存在しています、広がっています」**

**ブヴィグルナートゥイエ「ほめる」**

＊どなたが褒めています？

**ブーリダージャナーハ「寄付をいっぱいあげる人、ほかの人をお世話している人、ほかの人を助けている人」が。**

**（３）マントラの内容**

**①タヴァカタームリタ**

「タヴァカタームリタ」は「あなたの話、会話、教えはとてもすばらしい甘露です」という意味でしたね。

では「アームリタム」（、ネクター）とは何ですか？

それは素晴らしい味がするという意味だけではない。

**「人を不死にさせるもの」それがアームリタです。**

**「ムリタ」の意味は「死ぬ」。それに接頭辞「ア　a」が付くと否定型となり、よって「アームリタ」は「不死」「永遠」という意味になります。**

「永遠になる」の意味は、「人はみな死にます。しかし神様のことを聞けば人は永遠になります」。つまり真理を理解すれば無知が無くなり、すると苦しみ悲しみもなくなります。

「ムリタ（死）」の本当の意味は、からだ的に亡くなるということではない。**大事な理解は、苦しみ・悲しみ・無知は、みな「死」であること。しかしそれは神様のことを聞けば、なくなります。なくなると、それに代わって何が出ます？　喜びの状態、幸せの状態、無知がなくなって知識の状態、至福の状態──それが「アームリタム（甘露）」です。**

また、このような説明もできます。

人間には３つの体──①粗大な体（肉体）②精妙な体（生命エネルギー、感覚、心、記憶、知性）③原因の体（自我）──と魂がありますが（☞第２回福音勉強会も参照）、人が死ぬと、粗大な体がなくなって、精妙体と原因体と魂が天国地獄に行き、また別の粗大な体に入って再生します。肉体的な身体だけが新しい。これは粗大な体の死「ムリタ」です。

しかし、精妙な体も死ぬときが来ます。それは人が悟ったとき。悟りますと精妙な体はなくなり、そのとき、魂だけが存在し、個人の魂と偉大な魂がひとつに合一する。これは精妙な体の死「ムリタ」です。

しかし、何が死なないか？　何がなくならないか？

**魂だけ。魂だけはなくならない。神様のことを聞いて、神様のことを理解して、自分の本性を理解しますと、何の状態となる？──魂の状態、私の本性の状態。これが、不死、永遠、アームリタムの意味。**

**自分と粗大な体を同一すると死はやってくる（ムリタ）。**

**自分と精妙な体を同一しても死はやってくる（ムリタ）。**

**しかし自分と魂を同一すれば、死にません（アームリタ）。なぜなら魂は永遠ですから。私と魂は一緒、それが理解できると、私は永遠という考えがあらわれます。アームリタになる。**

すなわち、

**・苦しみ・悲しみがなくなる（死ぬ＝ムリタ）と至福（「アーナンダ」）というがあらわれます。**

**・無知がなくなる（死ぬ＝ムリタ）と、知識（「チット」）というがあらわれます。**

**・３つの体がなくなる（死ぬ＝ムリタ）と、魂だけとなり、魂は永遠無限の存在ですから完全な存在（「サット」）となります。**

**アームリタ（不死）の状態とは「サット・チット・アーナンダ」です。**

**神様のことを聞けばアームリタを得られる。神様のことを聞けばサッチダーナンダの状態となる。それほどの結果を得ます。**

**②タプタジーヴァナム**

さっき少し話しました、我々の人生は、苦しみ悲しみにより高熱状態であると。

しかし、考えてみてください、その苦しみ悲しみの状態だからこそ、「神様は素晴らしい」という考えがあらわれるのではないですか？　逆に言えば、苦しみ悲しみがない平穏な状況のときに神様のことを聞いても心に響かない。

ちょっと想像してください、たとえば“水”。私たちは毎日何回も水を飲んでいますが、その水を、とても甘い、とてもおいしいという気持ちになるのはいつですか？　とても暑い日に、日蔭のない道をえんえんと歩き、とてものどが渇いた状況のときに誰かに水をもらったら、きっと「ああ、なんて水は素晴らしいんだ」と感じます。神様のことも同じことです。人生は本当に大変です。しかし皆さんにその気づきはない。神様のことを聞いても「素晴らしい」という考えは出ない。これがおもしろいことです。

大変な経験は皆さんにもちろんあるでしょう？　しかしおもしろいのは、ほとんどの皆さんはそれをすぐに忘れてしまうこと。大変な状態であっても、それが少し楽になると、忘れます。しばらくしてまた大変な状態になります。それが少し楽になるとまた忘れます──大変、ラク、大変、ラク、大変、ラク・・・。皆さんのほとんどはその状態。それを繰り返すばかりで、人生は本当は大変なことばかりだという気づきがない。

ひとはどのように生きているのか？　９９％大変ですが、１％の楽しみで、その1％の希望で、皆さん人生を生きています。これがマハー・マーヤーですね。９９％は悲しみ苦しみ。そして気づかない。

だからふつうの人は神様のことを聞いても、神様は特別だとはあまり思わないです。しかし気づきがある人は探しています。９９％が大変な、その人生の意味を探しています。「私は苦しみ悲しみばかりの人生は好きじゃない。この人生を変化させたい。もっともっと楽しみの状態が欲しい」。

そしてそれができるのは、たったひとつの方法だけ。「真理のことを考える」「真理のことを勉強する」「永遠のことを集中して考える」。その方法だけで大変なことを超越することができます。

**「超越する」**という意味はわかりますか？

大変なことは皆さんに必ずある、起こる。それは信者も、聖者も、例外ではない。それを「取り除く」ことはできない。

ではどうしたらいいですか？　これが、（取り除くではなく）**超越**する。つまり真理のこと、神様のことをもし理解すれば、神様のことを想えれば、神様の話をいつも考えれば、その大変な状態を超越することができる。そしてそれが幸せの方法です。

時々誤解があります。信者になり、神様のことを考えれば、大変な状態はすべてなくなると。そうではないです。事実はこれです、「すべてのひとに大変な状態は絶対ある。そして、ある人はそれを超越でき、ある人はそれを超越できない」、それだけです。ある人は超越できるから幸せ。ある人はずっと泣いています。

そして超越するために、**人生についての気づきが必要**です。そして今の人生を変えたい、、今の生活を変化したい──それに気づくと、タヴァカタームリタ、神様は本当に甘露であると、考えます。そして真理、神様のことを本当に好きになります。そしてその考えは、苦しみと悲しみの状況のとき、あらわれます・・・。

賢い人はどのような人でしょうか？

**賢い人とは人生とはなにかを理解して、自分の毎日のやり方を変化させたいと思う人です。**しかしほとんどの人は、無知を持っていて、人生を幻のように生き、それを変化することなど考えていません。彼らは何回困っても変化しようとしない。

『バガヴァッド・ギーター』『カタ・ウパニシャッド』の中に、「真理を聞く人は本当に少な」く「特別です」とあります。

真理を聞く人は真理を好きになった人です。好きになったから真理を聞いています。しかし好きでなかったら、聞きたくない、真理のことを聞く場所を避けます、その場所に入ってもすぐに退出します。なぜなら間違って入りましたから（笑い）。だからイライラを感じて、すぐに出ます（笑い）。

しかし「人生の９９％は苦しみ悲しみ」を理解した人は、少なくとも真理を聞きます。聞いて少しずつ理解すると、「神様はとても素晴らしい」という信仰が生まれます。すると幸せがあらわれる──幸せの本当の方法はそれです。もちろん、その次の段階は実践する。最後は悟り。聞く、それが最初の段階です。そのようにして、賢い人のレベルは少しずつ上がっていきます。そういう人にとっては、神様の言葉は本当に甘露のように素晴らしいのです！

**③コヴィビィリーディタム**

これは「神様と神様の言葉をとても褒めている」という意味です。

誰がほめているのですか？

ふつうの人はほめていません。神様のことをほめるのは、「コヴィ」、聖者、賢者、賢い人です。そのような方たちが神様のことを、いつも、素晴らしい、素晴らしいとほめています。

ここで、ひとつ、大事な理解は、「言葉」は単なるシンボルだということです。「コヴィビィリーディタム」を字義どおり単に、「神様の言葉」と捉えるのは少し狭いアイデア。

**「コヴィビィリーディタム」の本当の意味は、「神様の何でも好き」。わかりますか？**

たとえば、「シュリー・ラーマクリシュナの言葉だけ好き、シュリー・ラーマクリシュナのやり方、態度、それは好きではない」。それではありません。「コヴィビィリーディタム」の本当の意味は、「シュリー・ラーマクリシュナの何でも好き」。そのとき、本当のアームリタム、「素晴らしい」の意味となる。『福音』は好き、しかし、シュリー・ラーマクリシュナのやり方、考え方、態度はあまり好きではない──それは矛盾です。それではアームリタムの感じが出ない。

**イメージは、全体、人格の全部。言葉だけではなく、何でも好き。歩き、話し、座る、歌、踊り、全部。全部好きになります。それが本当の好きの状態。**

たとえばfall in love（恋に落ちる）のとき。その時期は、恋人に否定的な姿を見ても、あまり気にしません。恋人のすべてが好きです。最初は何でも好き。ただ、人間の恋人同士の関係は永遠ではない。あとで、嫌いになる、その問題がある。

しかし、神様と神様の化身はそうではない。

「人間を愛す」と「神様を愛す」には大きな違いがあります。「人間を愛す」は、最初とても好きになって、だんだんだんだん嫌いなことが入ってくる。「神様を愛す」は、最初はそんなに好きではないという状態から入って、**好き、もっと好き、一番好き、一秒も離れることができない、その状態になります。神様から一秒でも離れたら心が痛くなる。**

人間の愛と神様の愛はそれほど違います。そしてそこまで上げないと、まだまだまだまだ。

**「神の信者」の理想的な状態はその状態**です。ちょっとだけ好き、ここだけ好き、ではない。すべてが好きです。シュリー・ラーマクリシュナはこんなコメントをしました、「もし私を好きになるなら、私の何でも好きにならないといけません」。ある部分だけ好き、ある部分は好きではない──それは本当の意味での信者ではない。イエス、お釈迦様の信者も同じこと。**理想的な愛とは１００％の愛**。もし本当の愛をしたいなら、神様を愛してください。なぜなら、人間を愛しても１００パーセントで愛すことはできないですから。いえ、もし、人間の中に神様を見て愛せばオーケーです、しかし、そうではないと問題が生じます。

理想的な愛のひとつに母親と子どもの関係がありますね。たとえばその愛について考えてみると、子どもが小さいときと、大人になってからを比べてお母さんの愛のレベルは変化してませんか？　お母さんは結婚した息子にときどき文句を言います、「最近あなた、あまり私の面倒を見ないわねぇ」。その文句が愛の現象を示していませんか？

神様は反対です。**もっと、もっと、もっと愛が増えるうえ、その愛に限度はない。なぜなら神様は永遠ですから。ですから神様の愛も永遠です**。だから、If you love, love God. Because there is no limit of love of God. みな誰でも「愛したい、愛されたい」という基本的な欲求（urge）がある。そしてもしあなたが、**「愛したい、愛されたい」なら、一番の愛の対象は神様**。このことを理解したら、「コヴィビィリーディタム」、「賢者たちは神様、神様の言葉、神様の愛、神様のすべてを、とてもとてもほめています」、その意味がわかりますね。

**④カルマシャーパハム**

「カルマシャーパハム」は「カタームリタム」の結果のひとつです。意味は「すべての罪がなくなります」。

汚れた水たまりも、太陽の光によって乾かされればなくなります。汚れた水は、罪のシンボルです。

それと同じように、**神様のことを聞けば、自分の罪はすべてなくなります。それだけでなく、もっときれいになります。きれいになれば、自然に罪はなくなります。罪を無くす別の方法はない。もっともっと神様のことを考え、神様を愛します。すると自然に罪はなくなる。これがバクティ・ヨーガのとても素晴らしいやり方です。**

ギャーナ・ヨーガ、ラージャ・ヨーガで心をきれいにする方法──ヤマの実践、ニヤマの実践──は、バクティ・ヨーガにはない。バクティのやり方はひとつ。神様を愛してください。愛しますと自然で罪はすべてなくなります。

どうしてなくなるのでしょうか？

我々が罪を犯す原因は、自分や自分の家族・親類を愛しているから。悪いことを考え、悪おこないをする原因は、自分への愛、家族・親類への愛です。つまり、「体と心が私です。私は魂ではない」という考えによって、怒り、うぬぼれ、憎しみ、嫉妬、肉欲があらわれる。そしてギャーナ・ヨーガ、ラージャ・ヨーガではそれをなくすために、ヤマ、ニヤマの訓練をしなさいと言います。

しかし、神様への愛が増えれば、自分と家族への愛が自然に減るのです。今、神様への愛が少ないですから、自分と自分の家族への愛が大きいですから、それでいろいろ罪を犯します。しかし、**神様への愛がもっと増えれば、自分への愛は自然に減っていきます。減っていますから、悪い考え、悪い仕事できない。悪い仕事、悪い考えの源は、自分に愛、自分の親戚に愛ですから。**

それでは前の罪、前の悪いカルマはどうしますか？　それがある限り、また大変な状態になってしまいます。

**そのとき、神様の恩寵です。神様の恩寵で前の罪、前のカルマは無くなります**。

ホーリー・マザーはなんと言っていますか？　「以前の悪いカルマの結果で大きなケガをする可能性がありました。けれども神様の恩寵によって小さな傷だけで済むでしょう」。

**「カルマシャーパハム」とはすべての罪はなくなります、神様の言葉で罪は取り除かれます。しかし、言葉だけ聞いても、永遠にはなれないし、罪は取り除かれません。「言葉」と「言葉を聞く」、「言葉を好きになる」、「言葉に従う」、「実践」、すべて入っています。**

（『福音』勉強会第１９回、以上）